

桜川文芸

俳句

〔大和俳句愛好会〕

水音の風にのり来る芽水仙 鈴木 ふみい
 風に知る季の移ろいや桜咲く 古橋 益子
 床の間の里芋の芽もいきいきと 成田 あさ
 ささやかな仕合香る蓬餅 鈴木 登美子
 夜昼と求愛猫の叫びかも 田代 てい子
 入学を寿ぐ朝の光かな 岩淵 のぶ子
 早春や五感のねむりまだ覚めず 鈴木 つぎ
 朝日受け嶺々の冠雪かがやけり 田中 はつひ
 らちもなき夫との会話春炬燵 代田 とし
 冬うらら蛇行となりし飛行雲 皆川 和子
 庁舎より見下す田にも陽炎燃ゆ 安達 幸子

短歌

〔花の室 木崎集〕

眼を凝らす雪降る海より浮かび来るあな
 たの心や未来のわたし
 塚田 沙玲

水温む川辺に沿ひて歩みゆく園児の帽子
 菜花と競ふ 野村 幸男

たわむれの春風に乗りひとひらの桜花び
 ら湯舟に遊ぶ 西岡 和子

きみの名を呼べば忽ち現はれてハンドル
 握る手ささへたまへり 深谷 快子

ふる里の風入れたれば卒寿なる姉への便
 り嵩なしにけり 鈴木 とみ

生け垣の檜伐りゆくのこぎりよりこぼる
 る木屑浄き香りす 中島 龍子

〔浪生地〕の大地に嫁して五十年波の生
 まれし土地と伝へ来 塩谷 明子

〔岩瀬短歌会〕
 何時の間に孫作りしかストラップ敬老の
 日に吊り下げられる 大関 にち子

緑児は尻持ち上げて幾度も二足歩行へ新
 たな挑戦 岡野 禮子

干し椎茸を土産にと待つ兄夫婦いつに変
 らぬ言葉の温し 萩原 きしの

鶉は寒の小池にばしやばしやと羽震はせ
 て水垢離しをり 片岡 喜知子

臘梅の園を暫く散策し匂ひ仄かに車にも
 どる 飯田 良江

庭に鳴くひぐらしの声侘びしみし一日は
 昏れて秋の深まる 山田 しげの

今年こそ願いを込めて祈願する二礼二拍
 手吐く息白し 泉 三郎

冬空に洗濯すればかじかむ手に寒いと泣
 きし日のよみがえる 浜野和 操

貧困の過去なりを知る吾にして孫子等に
 説く勿体なきを 石田 守子

〔岩瀬秋歌会〕
 古里に今尚動く古時計背伸びしてネジ巻
 く父を偲ぶぬ 大関 節子

厚霜の葉陰に潜む柚子一つ採り残されし
 ひと夜堪へしや 安達 悦子

柚子の実は師走の空に霜枯れて黄の色褪
 せて根方にまろぶ 安達 すみ子

今日ひと日事なくすぎし幸せを胸に抱き
 て明日を祈りぬ 角田 玉枝

霜白き路の傍へに葉がくれの菜の花手折
 りきて居間に咲きつぐ 坪井 ゆき子

脚腰の痛みし友は車椅子早い快復願ひ切
 なる 長谷川 玲子

仰ぐれば浅葱の空に陽もやさし身めぐり
 に春おほおぼと春 石川 喜代

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ